

「メディアと震災アーカイブの10年」

デジタルとリアル：活用と持続性

NHK放送文化研究所 メディア研究部 山口 勝

「震災アーカイブ」への視点

NHK

山口（2012）月刊フェスク8月号 東日本大震災の教訓 メディアが取材映像の公開を始める

山口（2015）地理9月号 災害を時空間で記録するデジタルアーカイブ

GISにハザードマップと避難行動、映像、証言を統合、**3D震災遺構の作成を提案**

山口（2016）放送研究と調査7月号 NHK文研フォーラム

震災5年「伝えて活かす 震災アーカイブのこれから」（今村文彦先生、諏訪主任司書）

山口（2017）放送研究と調査1月号 8K防災活用の可能性 8Kで災害を記録 **3D震災遺構作成**

4月 サイエンスZERO：復興ワークショップ（柴山明寛先生、伊東主任司書）

仙台市荒浜のみなさんに、NHKの震災前のアーカイブ映像（空撮）を見ていただいた。

文科省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編：防災、GIS、デジタルアーカイブ

山口（2018）文研ブログ：8Kで地域の災害を記録し伝え続ける意義 NHK熊本ワークショップから

山口（2019）放送研究と調査9月号 8K×AI 新たな防災報道に向けて（アーカイブ→学習データ）

2021年1, 2月 総務省 8K×5G防災実証 仙台市荒浜、作並（8Kドローン空撮×5G伝送）

2021年3月5日 NHK文研フォーラム 震災10年「災害アーカイブとメディアの公共性」

メディアのアーカイブ (NHK、FNN、河北新報、Google、Yahoo!)

NHK

2012年3月1日公開



<https://www.nhk.or.jp/archives/311shogen/>

2012年9月1日公開



<https://www.fnn.jp/common/311/articles/201103120086.html>
<https://www.youtube.com/user/FNN311>



<https://www.miraikioku.com/>



<https://archive-shinsai.yahoo.co.jp/>

<http://kahoku-archive.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/kahokuweb/?1>

メディアのアーカイブ (2019年テレビ朝日・2020年朝日放送)



<https://news.tv-asahi.co.jp/special/recfrom311/>



https://news.tv-asahi.co.jp/special/mainichi_bosai/

時空間で災害映像にアプローチ



25年を経て、取材映像公開：風化、メディアの使命

ひなぎく 連携予定

https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/



https://www.asahi.co.jp/disaster_archive/

激震の記録1995 取材映像アーカイブ



放送メディアの特性 映像、証言＋地図

証言まとめ 復興の軌跡 空から見た被災地 3.11の映像 防災・減災 放送予定 + 一覧から見る

NHK 東日本大震災アーカイブス

©TDFはちまき

サイト内検索 検索 NHKデジタルアーカイブス

サイトマップ この番組ガイド このサイトについて FAQ お知らせ



証言まとめ 復興の軌跡 空から見た被災地 3.11の映像 防災・減災 放送予定 + 一覧から見る

津波浸水深

8.0m 以上
4.0m 以上 - 8.0m 未満
2.0m 以上 - 4.0m 未満
1.0m 以上 - 2.0m 未満
0.5m 以上 - 1.0m 未満
0.5m 未満
干潮

被災地概要

証言

行動経路

チャプター表示

氏名: 藤敷 雄一 さん
元 雄勝小学校 教諭
場所: 宮城県石巻市
番組名: あの日 わたしは
取材時期: 2014年7月25日

04:17 / 05:00

映像解説動画のお願い

証言まとめへ

この地域の動画一覧を見る

東日本大震災から5年 “伝えて活かす”震災アーカイブのこれから

メディア研究部 山口 勝



アーカイブの利活用と持続性 メディアの公共性

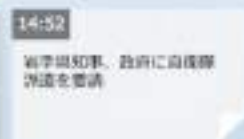
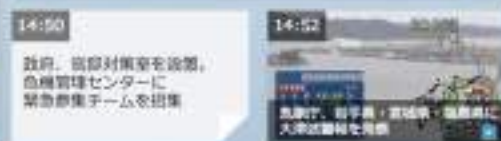
■ アクセスの推移（各年の3月を比較）

map連携中断！？

https://www.nhk.or.jp/bunken/research/domestic/pdf/20160701_4.pdf

あの日から5年。東北地方沿岸の被災地では、雨によって10メートルを超えるかさ上げ工事が進み、風景が一新

震災5年「72時間」タイムライン「編集」で見てもらおう工夫



VR・AR・3D、復興、定点撮影などコンテンツの蓄積→2020年度末 自然災害の記録 300件へ



震災10年 2021年3月
NHK東日本大震災アーカイブスから
仮）NHK災害アーカイブス へ



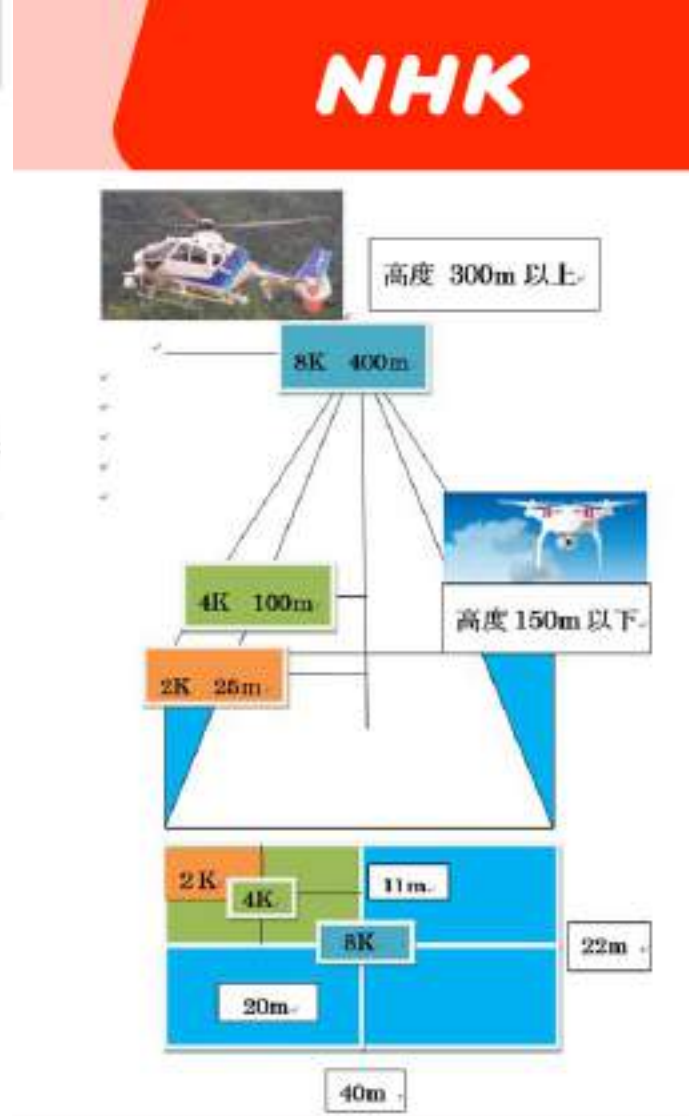
仙台市若林区荒浜のみなさんに、震災前のNHKアーカイブ映像（空撮）を見ていただいた。

「荒浜は津波で流されたが、私たちのふるさとが無くなったわけではない」 復興への思いを新たに
復興に アーカイブ映像を 公共メディアの役割

8K スーパーハイビジョンの 防災活用の可能性

https://www.nhk.or.jp/bunken/research/domestic/pdf/20170101_07.pdf

メディア研究部 山口 勝



2Kの16倍高精細な8Kで災害を記録
デジタル（データ）アーカイブとして
活用



8 K映像→3Dモデル デジタル保存

NHK



山口（2018）8 K空撮の活断層研究への活用
活断層研究 48

https://www.jstage.jst.go.jp/article/afr/2018/48/2018_1/article/-char/ja

活用 NHK熊本 防災ワークショップ デジタル×リアル 8Kで地域の災害を記録し伝える意味

NHK



2日間
定員の2倍 120人参加

最前列の女性（西原村）
「地震の記憶がよみがえって
きました」と声を詰まらせた。





デジタル×リアル

熊本地震「回廊型震災ミュージアム」
震災遺構、展示施設、デジタルアーカイブをつなぐ

熊本大学竹内准教授
(熊本大学アーカイブ)

活用 学校教育 被災地で

<http://iwate-archive.pref.iwate.jp/>



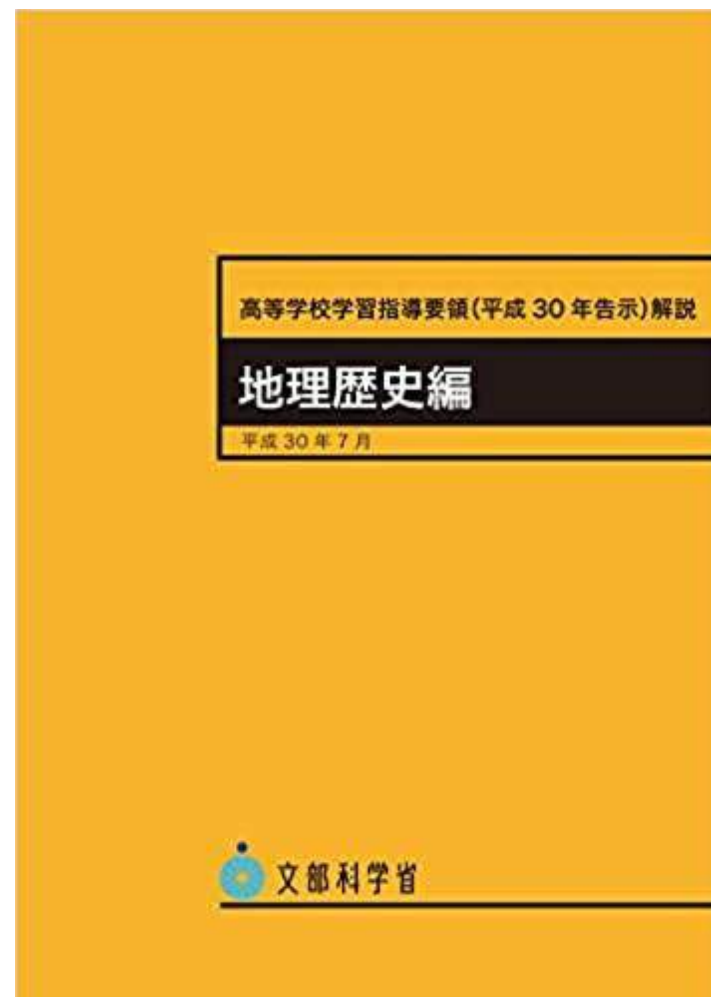
≫アーカイブを活用する



活用 学校教育 全国で 新学習指導要領



NHK



必修「地理総合」防災・GIS・持続可能社会 日本史探究 デジタルアーカイブの利用

青 本 眞 二	広島県教育委員会教育指導監
加 藤 一 郎	埼玉県立坂戸西高等学校教諭
久 保 純 子	早稲田大学教授
小 林 正 人	東京都教育庁高校教育改革担当課長
榮 田 祥 彦	東京都立国分寺高等学校指導教諭
高 木 優	神戸大学附属中等教育学校教諭
中 嶋 則 夫	茨城県立八千代高等学校教頭
永 田 成 文	三重大大学教授
中 本 和 彦	四天王寺大学教授
松 井 圭 介	筑波大学教授
矢ヶ崎 典 隆	日本大学教授
山 口 勝	NHK放送文化研究所主任研究員
由 井 義 通	広島大学大学院教授

高等学校学習指導要領解説 地理歴史編

総説 18p 我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災
平成20年改訂以降、未曾有の災害である東日本大震災を経て、なお全国各地で生起する地震被害、さらに台風や集中豪雨などによる水害や土砂災害など、頻発する自然災害に対応した人々の暮らしの在り方を考えることは、我が国で生活する全ての人々にとって欠くことのできない「生きる力」である。

地理総合 63p (内容の取扱い)

自然災害に関する一般的な知識を身に付けることも重要であるが、実際に自分が被害に遭う可能性があることを認識することも重要である。このため、学校所在地や生徒の居住地周辺のハザードマップを読み取ったり、過去に起こった災害の様子を調べたりするといった学習活動を通して、生徒が生活圏における自然災害の危険を具体的に認識し、それへの対応を考えて防災意識を

日本史探究 261p 仮説の設定と諸資料の活用

資料の収集に当たっては、これまでの学習の成果を生かし、資料の有効性や限界等の基本的特性を踏まえた上で、新聞や雑誌、写真、映像や遺物などを活用する。その際、博物館や資料館、図書館、公文書館、また、デジタルアーカイブなどの果たす役割に着目するとともに、フィールドワークなどの調査・見学などの学習活動を取り入れることが考えられる。

- ・映像（動画）は、動き、音を時間の経過とともに記録。「災害を伝える」重要なコンテンツ。放送には時間的制約があるが、アーカイブではなく、様々な「災害アーカイブ」が生まれた（デジタルメディア）。
- ・放送メディアのアーカイブは、復興、定点撮影に加え、震災体験や遺構のVR、AR、8K空撮から3Dモデルなどデジタルコンテンツも（デジタル保存、活用）。
- ・活用に当たっては「ワークショップ」や「授業」など、リアルな場で一緒に見ることも。（リテラシ・共感）
- ・震災後、改訂された新学習指導要領「生きる力」では、防災教育が重点化された「地理総合」が高校で必修に（2022年度～）。アーカイブを使った防災教育も、被災地から全国に（震災を知らない世代へ）。
- ・時空間（地図と年表）で整理し、検索アクセスできることは、学校教育をはじめユーザーにとって重要。
- ・震災10年は、メディアのDX（デジタル・トランスフォーメーション）期と重なる。メディアの公共的役割の一つとして、震災アーカイブ、災害アーカイブが位置付けられつつある一方で、持続させるためには、資金、技術（プラットフォームなど）、制度（著作権や肖像権など）の整備、支援、協力がさらに必要。

「災害を伝えるデジタルアーカイブとメディアの公共性は・・・」

★2021年3月5日 NHK文研フォーラム オンライン<https://www.nhk.or.jp/bunken/forum/2021/index.html>

ぜひ、ご参加ください。